サンシャインプラネタリウムの存続を！
―公共性担保の取り決め有り―

1．この館は公共性をもったもの

東京都豊島区東池袋にあるサンシャインプラネタリウムの閉館が2月5日に発表された．首都中心部にあり，気軽に入れる文化施設・生涯学習施設がなくなることの惜しさと同時に，日本で第2位の入館者数を誇るこの館が閉鎖することによる他の館への影響の大きさを我々はまず考えた．しかし，これは一民間企業の問題であるので，存続を単にお願いするしかないと思い，「サンシャインプラネタリウム存続を願う会」を立ち上げ，署名を募ることとした．ところが，「東京拘置所跡地再開発の記録」を見つけ，この館が公共性をもって建てられたことを知った．すなわち，再開発で高層ビル建設計画が進み，地域環境への悪影響に配慮して「豊島区民への還元」としてそこに公共的施設を確保することとなり，「空と海」の児童文化センターということでプラネタリウムと水族館が設けられた．その公共性を担保するために「児童文化センター等管理運営連絡会議規約」がつくられ，その連絡会議は豊島区側と会社側の役職で構成され，区側が招集することになっている．閉館という最も重要なことがこの会議で諮られることもなく，一方的に決められるものではないはずである．さらに，豊島区立の小・中学校の校外学習にはこの施設が無料で利用できることが明記されており，その取り決めは双方からの申し出がない場合には自動的に1年ずつ延長されることになっている．したがって，校外学習利用は少なくとも2003年10月31日までは可能のはずである．

これらの規約や取り決めが現在も有効であることは，本会が区議会に提出した陳情書と添付書類（上述の記録）が文教委員会で審議され，確認されている（本会議で採択）．

2．閉館の理由が曖昧

会社側が挙げている閉館の理由の一つとして，「よく故障して有料で公開できる状態でない」とされている．現有の機械は導入後10年経っているが，メーカーのミノルタプラネタリウム(株)は一般に，「10年を区切りとしてオーバーホールをすれば5年間は安心して使える」といっている．したがって，まだ更新する必要はないが，会社側は「更新に3～5億円の費用がかかるので維持を断念した」としている．大規模館の横浜こども科学館の更新でも3億円であり，中規模館のサンシャインプラネタリウムの場合は3億円もかからない．また，「採算を取るには30万人以上の入館者が必要」といっている．本会が入館者数22万人として，業界の平均的数値を使っての経費試算を行ったところ，赤字にならない結果が出た．

この館は1999年の年間21万人の入館者数を底として，その後毎年1万人ずつ増えている．十分に存続可能なプラネタリウム館である．

3．署名の提出と存続の提案

本会は3月28日に豊島区長と教育長との面談をし，5393名の署名を提出し，またこの館がいかに貴重な文化施設であるか，会社側の閉館理由がいかに不合理であるかの資料を提供した．

4月21日には会社側と面談するが，その際にはさらに増えた署名を手渡すことと，存続のための提案を行う．

水野孝雄（東京学芸大学教育学部）
e-mail:mizuno@u-gakugei.ac.jp
（サンシャインプラネタリウム存続を願う会会長）
http://homepage2.nifty.com/~tomoko/ssp/